



竹林の風

令和4年度 STOP!いじめ!!ひとりで悩まないで(いじめ防止リーフレットの配布)



学校支援課では、令和4年度版「いじめ防止リーフレット」を作成し、管内すべての小学校、中学校、高等学校、そして、特別支援学校に配布します。

リーフレット表面（左側の画像）は、児童・生徒と周囲の人たちへのメッセージです。いじめはどの子供にも起こりうるものであり、苦しんでいる子供には一人で抱え込まず、身近な大人に相談すること、周囲の人たちにはSOSに気付いて声がけすることの大切さを伝えたい、という思いで作成しました。

さらに、「いじめの未然防止」の考え方を踏まえ、「あなたのことを心配してい

るよ」というメッセージを加えることで、子供に伝わるような構成や言葉の表現などにしました。

裏面（右側の画像）は子供たちの成長に関わる保護者の方々をはじめ、地域の方々に対するメッセージも込めた構成としました。いじめの未然防止を見据えた子供たちへの関わり方や、SNSを含む、安全に賢くインターネットを利用させるために気を付けておきたいことを挙げています。

また大人も子供も一人で悩まないようにしてほしいという思いで、相談機関の連絡先を掲載しております。

各学校には3月中にお届けする予定ですので、新年度4月以降に、学年開きや特別活動などに関連させながら児童・生徒に配布し、御指導くださるようお願いいたします。また、校内掲示用に拡大版のリーフレットも同封しますので、いじめの未然防止や早期発見に御活用くださるよう重ねてお願いいたします。

年度末及び年度初め事務処理について

3月4日（金）に集合での開催を予定しておりましたが、「年度末及び年度当初事務処理研修会」は、コロナ禍ということで、書面での開催となりました。調整していただいた事務長の皆様には大変お世話になりました。

今回新規でお知らせしたい内容は、学校事務職員の皆様にお配りした資料の7番「定期監査及び令和4年度内部監査に係る事務相談について」です。具体的には、過去5年間の定期監査の際の注意事項及び指摘事項の原因と再発防止策一覧、そして分類別に合計60件の詳細をまとめました。全体としての傾向を把握するとともに、情報を共有し、学校だったらどこでフィルターがかけられるか、そのようなことをシミュレーションしながら今後に役立てていただきたいと思います。

さて、年度末、年度始めと、今後定期人事異動等に伴う事務作業が増えることとします。とりわけ、各種手当の変更が多く発生する時期となりますので、その際には忘れずに各種届出作業を進めてくださるようお願いいたします。



教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする

令和4年度 県費会計年度任用教育職員の勤務について(確認)

今回は、会計年度任用教育職員の「勤務」について、確認の意味で御案内します。

勤務いただく際には、任用者全員に「勤務条件明示書」が届きますので、御本人はもちろん、管理者の方にも内容を御確認いただき、適切に御対応くださるようお願いいたします。確認内容としましては、「業務内容」「年間勤務週間の上限」「年間勤務時数の上限」「週あたりの勤務日数」「週あたりの勤務時数」などに加え、「長期休業中の勤務は、原則割り振られない」です。

職種に限らず共通する話題として、児童・生徒の長期休業中など、いわゆる登校の実態がない日は、先述のとおり、勤務が割り振られませんので、当該職員の休暇等は設定できないことになります。具体の一つとして、児童・生徒の夏季休業期間中は、夏季休暇や年次休暇はそもそも取得が不可能となるということです。

また、例えばスマイル・プロジェクトで任用されている職員が、学校行事などで週休日の土曜日に勤務する場合、同一週の月曜日から土曜日のうちの5日間に勤務を割り振り、さらにその週の勤務時間が計29時間を越えないようにあらかじめ設定します。さらに、土曜日の勤務が天候等の影響でなくなり、日曜日に勤務となった場合は、翌週となる日曜日から金曜日のうちの5日間に勤務を割り振り、さらにその週の勤務時間が計29時間を越えないように設定します。これは一例になりますが、いずれにしても、勤務条件明示書の内容を御確認いただくことが重要となります。

御不明な点などございましたら、お手数ですがその都度、教育事務所までお問い合わせください。

初心忘るべからず

4月は、新しい環境や立場でスタートを切る人が多い時期です。社会人として第一歩を踏み出す人、異動により新たな職場で勤務する人、主担当の業務が変わる人、そして、退職となる人などがいらっします。そんな中、環境や立場が変わらず、これまで同様に勤務する人が半数以上おられると思います。その状況は、慣れなどによって緊張感を失わせることがあるかもしれません。

この「緊張感」を受けて、世阿弥が記した伝書「花鏡」の奥の段に出てくる言葉を御案内したいと思います。多くの皆さんが御存知の「初心不可忘（初心忘るべからず）」です。一般的には、物事を始めたときの志を忘れてはいけないという意味で使うことが多いと思いますが、世阿弥は三つの初心を忘れてはいけないと説いています。

一、是非の初心忘るべからず

若い時に、失敗や苦勞の結果身に付けた芸は忘れてはならない。後々の成功の糧になる。

一、時々々の初心忘るべからず

年とともに、その時々々に積み重ねていくものを時々々の初心という。時々にあった演じ方をすることが大切で、演じた風体を全部身に付けておくことで全てに味が出てくる。

一、老後の初心忘るべからず

老齢期にあった芸風を身に付けることが老後の初心である。老後になっても初めて遭遇し対応する試練がある。その都度、初めて習うことを乗り越えなければならない。

三つの初心は、それまで経験したことのないことに対して、未熟な自分を受け入れながら、一つの所に満足してとどまるのではなく、その時々で自分をアップデートし、新しい事態に挑戦していく心構え、その姿を語っているのではないのでしょうか。教職も職人技です。初心忘るべからずに通じるものがあるように思います。そして、年度の切り替わりは異動の有無にかかわらず節目となります。竹は節があるために、高く伸び、しなやかで頑丈に育ち、多少の嵐が来ても折れることはありません。新人、新任、ベテランの方々も、三つの初心を心に留めたいものです。そして胸中成竹、心を一つにさりげなく、穏やかな令和4年度のスタートを見据えていただきたいと思います。

さて、日々学校教育活動を支えてくださっている全ての皆様に、深い敬意と感謝を込め、令和3年度の竹林の風を結びたいと思います。

私事で恐縮ですが、竹林の風創刊に携わらせていただき、初心を思い出すとともに第60号の節目を迎えることができ感慨深いです。今年度も1年間御笑覧いただき、ありがとうございました。